

こだま通信

75号



【編集】 特定非営利活動法人こだま

〒690-0048 松江市西嫁島1-1-19

☎&FAX 0852-28-8162

・・・あたらしいミッション・・・

NPOこだまを設立したときのミッションは、「利用者の人たちが地域の中に選べる事業所を作っていく」「障がい者サービスを利用する方達の地域生活を支えていく」ということだった。あらかる18年、松江市内にも障がい者サービス事業所が増えてきた。この春にも、NPOこだまから2つの事業所が独立し、新たな事業活動を開始している。今後は以前から保護者の方から求められてきている、新たなミッションに向けて活動していく時期にきているように思う。

われわれのミッション

NPO法人は、法人認可を受けるにあたって法人の目的（ミッション）は何か、ということを書き記述する必要がある。こだまの法人としてのミッションは、在宅の方に対して障がい者サービスを行い、福祉の増進に寄与する、となっている。

その目的を達成するために、のびのびと過ごせる日中活動の場と、休日に楽しく過ごせる余暇支援の機会と在宅での生活が無理なく過ごせるようにと、ホームヘルプの事業を行ってきた。これまでたくさんの方に支持され、大過なく事業が継続できて来たのは本当にありがたいことだ。

開設からまもなく20年になる。この20年でも障がい者の施策は変わってきている。その人らしく、地域の中で暮らしていけるように、障がいの重い方でも地域の中で暮らしていけるように、そんな施策が作られてきた。利用者の方を取り巻く環境も年々変わって来ている。

保護者からの要望

毎年、保護者の方との話し合いを続けているが、最近は将来のことについて相談されることが多くなってきた。実は前々からグループホームのことについては要望があって、その都度検討してきた経緯がある。しかし検討はしてみるものの、色々な条件がクリアできずに開設の方向にはいかなかった。こだまがで

きるのは、アパートで暮らす方の支援かなと思っていた。昨年の夏、実践報告会でヘルパーさんと暮らす実践を追った「道草」というドキュメンタリー映画の上映会をおこなった。強度行動障害の利用者の方がヘルパーさんと食事を作ったり、散歩に出かけたりする姿が、生き生きと映しだされていて、保護者の方も含めた参加者の方からも、よかったとの反響が多かった。あんなに生き生きと暮らせるなら、あんな生活をおくらせてあげたいな、そんな思いが湧いてくる内容だった。

みんなが安心できる将来を

最近は安心して住める場所が欲しい、という要望がより多く聞かれるようになってきている。日中活動の場に加えて、暮らしの場が必要になってきた。NPOこだまの新たなミッションだ。

先日、保護者の方を交えてグループホームの勉強会をおこなった。最近のグループホームの動向を話したあと、意見交換をおこないそれぞれの思いを話していただいた。

新たに作るグループホームは、みんなが安心して過ごせる、そんなグループホームでないといけないと思っている。入居される利用者の方はもちろん、利用を依頼される保護者の方も安心できるそんなグループホームが出来たらと思っている。

【山田 久】

NPOこだまの新型コロナ対策は

今年になって新型コロナウイルスの感染が国内でも広がり、障がい者サービス事業所でも活動を制限をされることが多くなってきていました。特に4月7日に出された「緊急事態宣言」後は、松江市内でも感染が確認され市内の小中学校、高等学校等も休校になるなど市民生活への影響も色濃く出てくるようになりました。そんな中で、NPOこだまは、以下のような新型コロナ対策を取って来ました。

NPOこだまの感染症対策



国内で感染が確認された時点では、マスクの着用、発熱検温チェック、取っ手などの消毒などをおこなってきました。また感染防止には3密を避けること、部屋の中の定期的な換気が有効であることなどが伝えられ、さっそく3密防止にと、小テ

ーブルを購入して対面を避けながら分散して座れるように配慮しました。

4月7日の緊急事態宣言後は、医療的ケアの必要な方やお家で過ごすことができる方には、利用の自粛を求めるお願いもしました。お家で過ごされる方のため、家族の方と一緒にできる鯉のぼりなどのクラフト用紙を印刷して届けたり、クッキー工房のクッキーやプリンをお届けしました。



クッキー販売やカフェの営業自粛もおこないました

就労継続支援B型のクッキー工房やカフェこだまは、緊急事態宣言が発令されてからは事業所を訪問しての販売や、定期的に訪問販売をさせてもらっていた事業所などでの販売を自粛しました。また、カフェこだまは、4月13日より営業を中止しました。そして5月からはテイクアウトの弁当作りをして生活介護の利用者や職員の方に購入していただきました。このお弁当がとても評判が良く、職員の家族や知り合いの方までもが注文してくださるようになりました。6月からは3密や対面の席にならないように、これまでの席の数を減らして営業を再開しています。クッキー販売も訪問先に確認を取りながら再開をしているところです。



居宅介護・移動支援も自粛しました

居宅介護では、家族の方の確認をとってから訪問し、事前の手洗い消毒を徹底するなどの対策のほか、入浴時でもマスクを着用するなど細心の注意をはらいました。また週末の移動支援もバスや電車に乗るのを避け、短い時間の散歩などを提案し実施してきました。4月、5月は通常の1/3程度の実施状況でした。何よりも「感染させない」を心がけながら対応しています。



これからの新型コロナ対策は

再び全国的に感染が広がりを見せています。NPOこだまは、小さいグループに分かれて活動していますので感染のリスクは抑えられているように思いますが、常に新しい情報をキャッチして「感染させない」を徹底していきたくと思っています。先日は冬に向けて備蓄用のマスクやビニールエプロン、アルコール液も入手しました。みんなが安心して活動できるように、新型コロナ対策の体制を作っていきたいと考えています。

NPOこだまの新型コロナ対策は



職員はマスクの着用をして対応させていただきます。



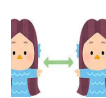
随時、手洗いを行います。
(外出後、作業後など)



手指の除菌、玄関の取っ手、引き戸
手すりの除菌を定期的に行います。



定期的には換気を行います。天気の良い日は窓を開けて活動します。



利用者同士、利用者と職員間の距離を保てるようにします。

新型コロナウイルスへの今後の対応について(緊急事態解除後の対応)

緊急事態宣言が解除になりました。今週からは松江内の学校も再開されました。緊急事態後の気の緩みを危惧する声も聞かれますが、NPOこだまではそうならないように気をつけていきたいと思えます。これからの対応についてまとめましたのでみんなで感染防止に努めましょう！

【職員の皆さんへ】

- 出勤前に検温をお願いします。 37.5以上の場合は、連絡したうえで自宅待機をお願いします。また、倦怠感、のどの痛み、咳症状がある場合も同様です。また、家族の方にも同様の兆しが見えた場合には、速やかに相談してください。
- マスクの着用をお願いします。
こだまには、使い捨てのマスクの備蓄はあとわずかです。しばらくは入荷が困難だと思われるので、できるだけ手作りマスクをお願いします。特に、送迎時、他の施設機関に送迎をする場合など、なお一層気を付けて着用してください。
- 手洗い、除菌はこまめに行ってください。食事の介護のあとなどなど特に注意してください。
- 勤務時間以外でも、人込みの多い場所などに行くことは控えてください。
- 県境を越える外出や、地域や感染者が多数出ている地域への外出は控えてください。

【日中活動について】

- 職員はマスクを着用しましょう。(事務所に布マスクがあります。必要な方はお使いください)
- 3密(密室、密集、密接)をさけて、風通しの良い場所での活動をしましょう。
移動時の車に乗る場合にも、換気に気を付けたり、密接にならないようにしましょう。
- 社会的距離(ソーシャルディスタンス)が保てるような配置を心掛けましょう。
(部屋全体をつかった配置にしたり、小さな机を点在させて座るなど)
- 対面にならないような、介助や支援を工夫しましょう。食事の場面など特に対面を避けた介助の工夫をしましょう。
(側面からの介助を工夫しあいましょう)
- バス、電車などを使う活動は混雑を避け、乗客の少ない便にしましょう。
(乗降時には、必ず手指の殺菌を行い感染防止に努めます。事前に計画書を提出し、家族の方の承諾を得てからにしましょう。)
- 多人数で行う調理活動は、マスクの着用や感染対策を講じたうえで行いましょう。
- 食品の製造には十分な配慮をおこなったうえで、衛生管理に気を付けておこないましょう。
- 販売にあたっては、先方の確認をとってから行うようにしましょう。多人数での販売は行わないようにしましょう。
回数を分けて行うなどの工夫をしましょう。

【居宅介護・通院介護について】

- 家庭内での身体介護の場合は、入室時の手洗い・うがいを行いましょう。小さい除菌スプレーを携行しましょう。入室前や退出後などにスプレーを活用しましょう。
- 排泄介護の場合には、手袋等の着用をしましょう。
- 入浴の場合には、マスクを外してよいか、家族の方に確認しましょう。
- 通院介護については、移動がバスになります。ご家族の意向も聞きながら、対応しましょう。移動が困難な場合や、待ち時間が長くなるような場合は、家族の対応もしくは電話での診療などの情報を伝えましょう。歯科通院の場合にも同様に、家族の意向を確認しましょう。

【移動支援について】

- 3密(密室、密集、密接)をさけて、人込みの少ない場所でのウォーキングなどを中心に行いましょう。
- 週末の移動支援については、保護者の方に確認をしてから計画を立てましょう。
その場合、3密を避けて行うことや、なるべくバス・電車の利用は避けるなどの説明をしましょう。バス・電車を利用する場合には、ほかの方との距離をとることやマスクの着用、除菌スプレーの携行を行い、降車時に利用者・ヘルパーともに除菌を忘れないようにしましょう。
- 移動支援当日の行動予定については、サービス提供責任者に確認し、終了後もその日の様子を報告してください。
サービス提供責任者は情報を集め、的確な指示が出せるようにしましょう。

*これは緊急事態宣言解除後に出したNPOこだまの対応指針です。新しい情報に基づいて更新してまいります。

あたらしい拠点ができました！

天神バス 停前に

生活介護こだまの街中での活動の場所として

天神町のアーケード内にある”いっぷく亭”という場所を借りることができました。以前はバスを待つ人の休憩所でした。二階にはマッサージをしてもらえる場所もあったようで、周辺の方々にはなじみのある場所だったと挨拶周りの際におしえていただきました。

今年は一人ひとりの個性や表現を形にしようという目標で、新しくこだまは動きはじめました。今までのこだまの場所で行うのもいいのですが、せっかくなら街中でみなさんの目にとまる場所で、活動の拠点をもっと街中へ、という思いから天神町のいっぷく亭を選びました。これから主に造形や周辺の散策、作品の展示を中心に小さなグループで活動をしていきたいと思っています。

“いっぷく亭”という名前から想像できるように、のんびりと自分に合ったペースでリラックスして表現していただきたいなと思っています。当初、こだまらしい新しい名前をつけようと悩んでいましたが、地域になじみのある名前、“いっぷく亭”という名前の響きがこだまらしくてすてきだなと思い、そのままの名前で運営していくことにしました。バスを待つ人、周辺の住民の方々、近くのお店の方々、そのお客さん、いろいろな人が行き来する場所です。昔の松江を知る方は今よりももっと活気のあった場所だったと口をそろえて言われます。もう一度そんな街にしたいという思いをもった方々は街中にたくさんおられます。以前のような、みなさんに親しみのある場所づくりをこだまの利用者さんと職員とで目指していきたいと思えます。

建物の中はどなたでも使いやすいようにバリアフリーのトイレやカーペットが敷いてあります。また気軽に好きな時に表現ができるように壁の一面を黒板にしました。先日、みなさんでチョークを使って好きな模様、名前などを自由にかいてみました。そしてさっそく流木や和紙を用いたランタンも飾っています。

近くには市民活動センターや山陰合同銀行の展望台、橋を渡ると京店、西の方へ少し歩くと白潟公園もあります。そして敷地を一つ挟んでお茶屋さんがあります。こだまではみなさんコーヒーを飲まれることが多いですが、いっぷく亭は城下町らしくみなさんでお茶を楽しんでどなたでも気軽に立ち寄れる場所にしたいと考えています。

また今年はコロナウイルスの影響で中止となってしまいましたが、夏には天神夏祭りも開催されます。利用者さんや職員が屋台を出店し、いっぷく亭を拠点にお祭りを楽しむのも面白いかもしれませんね。また足を運んでみてください。

【永井 智】



天神町のバス通り天神バス停前の建物です



床はふかふかの絨毯です



壁には展示できるスペースが



多目的トイレも設置しています

乃木駅 まえ

クッキー工房の新しい工場と

お店ができました



木製の戸になっています



イートインのコーナーもあります



りんご箱を再生した陳列棚



作業場は天井も高く、広く
明るくなりました

前回の通信でも紹介していましたクッキー工房の新しい作業場兼店舗の「KUKO」（クーコ）がオープンしました（KUKOとは、エスペラント語でケーキや焼き菓子という意味です）。

KUKOは、クッキーを作る作業室とお店の部分に分かれています。お店からは作業をしている様子が目に入るようになっています。オープン初日、新しい作業室に入ると「明るいね」「広くていいね」との声。同じクッキーを作っても新鮮に感じ、クッキー作りにもつつい熱が入ります。するとさっそく「誰かがきたよ」とお店の方を見てひとこと、「いらしゃいませ」とお店に向かうと「何ができるだろうかと気になっていました」とオープンを楽しみにして下さったご近所のかたでした。

米粉のクッキーとプリンを紹介するとお買い上げくださいました。「売れたよ」と作業室にもどると「よかったね」「やった～！」と作った製品が目の前のお店で売れる喜びを実感し合いました。プリンはこれまでの工房で作っています。クッキーを作るグループとプリンを作るグループに分かれることにより、常時プリンの販売ができるようにしています。おかげさまですでに、プリンファンのお客様がリピーターとしてご来店くださっています。

新しい工房は乃木駅前のビルの1階です。お店は落ち着ける雰囲気大切にしています。作業の様子もぜひご覧ください。ご来店をお待ちしています。

【池田 里美】



乃木駅前の交差点のビルの1階です

ぜひお立ち寄りください

生活介護事業所こだま 活動のようす

ほんそご

ほんそごでは音楽の活動に力を入れて取り組んでいます。

これまでも行ってきた、外部の先生を招いての月に2回の音楽会と、職員有志による音楽会を合わせて週に1回のペースで音楽会を行っています。

ほんそごの音楽会は、ただ音楽を聞くだけではなく、皆さんが参加できる音楽会を目指して取り組んでいます。皆で作った手作りの楽器を鳴らしたり、ミニドラムセットを叩いて音楽を楽しんでいます。

また、6月から新たな拠点の一つとして稼働している『いっぷく亭』でも、今後は音楽会が開催できるよう考えております。そしてゆくゆくは、外部の方にも聞いていただけるような音楽会になっていけばいいなと思っています。

実現するまでにどれだけ時間がかかるかは分かりませんが、ゆっくりと一步一步、皆で進んでいけるよう頑張りたいと思います。【細川 裕之】

生活3グループ

6月の終わりに少し早い夏祭りをしました。一週間かけて準備し当日を迎えました。的あて、輪投げ、ピン球すくいとチョコバナナ、お菓子のつかみ取り

です。的あての的は、皆で絵を描きペットボトルにくっつけました。ペンが得意な方はサインペンを持ち、思うように描いてもらいました。絵の具を指につけて描いた方もいて個性豊かな的あてが出来上がりました。輪投げはお家から古新聞を持ってきてもらい皆でびりびりやぶいたものを包んで輪っかにしました。作っている時から想像しワクワクする一週間でした。当日、女性はチョコバナナ作り、男性が外でテントを張ってプールを準備し看板を掲げ、なんとかお昼前に会場が出来上がりました。

ちょうど支援学校の先生方の見学もあって、賑やかなお祭りがスタートしました。いつもと違うことが苦手な利用者さんも、この日だけは誰が来ても動じることなくお菓子のつかみ取りコーナーを最後まで担当することが出来ました。ピン球すくいのピンポン球は利用者さんのお母様に頂いたもので、皆がすくしやすいようにお玉とボウルですくいました。その日はふだん間食しない方がお菓子のつかみ取りで取ったお菓子を口にしていたり、お弁当はなかなか食べない方がチョコバナナを2本も食べておられたり、それぞれが楽しんでくれていることが伝わってきました。全員で作上げた夏祭りは最高に楽しい時間でした。

【森山 祐子】

ホームヘルプサービスこだま 活動のようす

新年度早々、新型コロナウイルスの対応に追われることになりました。特に通院介護や移動支援といった公共交通機関を利用する場合、感染防止のためしばらく自粛する対応をすることになりました。感染者が落ち着いた、6月よりコロナ感染に気を付けながら、少しずつではありますが移動支援でバスを利用したり、建物の中に入ったりするなどして活動の幅を広げています。自粛期間中、バス停まで脇目も振らず歩いて行き、バスを待たれる利用者さん。『バスに乗りたい。』私も何度も思いました。

久しぶりにバスに乗り、ホッとしたような表情をされる利用者さんの姿を見て、私まで嬉しい気持ちになりました。バスに乗るといふ、当たり前前のごんごんに嬉しいとは思いませんでした。

まだまだ制限はありますが、まずは安全を第一に考えながら、制限の中でも楽しく過ごせるような活動を提供していきたいです。

【余村麻由子】

就労継続支援B型事業所こだま

活動のようす

クッキー工房

今年度は、法人の分社化もあって職員の配置替えがありました。長くクッキー工房を担当していた三上さんが新法人への異動となったため、新たに2名のパート職員を迎えてのスタートになりました。利用者の方も、昨年の実習で進路を決めた2名の方が新たに利用することになりました。



年度はじめは、みなさん張り切っていたのですが、新型コロナウイルスの影響でしばらく販売の自粛をすることになり、クッキー作りは計画通りできないことになりました。それでも、自宅で自粛生活を送っておられる利用者の方やこだまの利用者の方に、「新型コロナに負けるなプリン」とクッキーの詰め合わせをお届けする企画ができ、届ける利用者の皆さんの顔を思い浮かべながら、みんなで作業しました。

また今年から、プラスチックゴミの減量化や買い物袋の有料化などが実施されることになっています。クッキー工房でも、販売時にはこれまでナイロン袋を利用していましたが、これを機会に紙の袋に切り替えていくことになりました。クッキー作業の合間にみんなで英字新聞のリサイクル袋作りを始めました。新聞を折る人、糊付けをする人、紐をつける人などとそれぞれ得意な部分を担当しながら楽しく行っています。出来栄もとても良く、手渡したお客さんからも好評を

いただいています。また月1回、定期的にこだまクッキーをお届けする「お届け会員」の方への袋も、季節の折り紙を貼り付けるなど、届けてもらってより嬉しくなるような工夫もしています。

新しい工房「KUKO」もできて、一層活動しやすい状況が

できました。市内の支援学校も再開され職場実習も始まりしました。これからも利用者の皆さんが毎日通いたくなるような工房づくりをしていきたいと思ひます。



カフェこだま

新しい利用者1名を迎えてのスタートになりましたが、新年度早々に新型コロナの「緊急事態宣言」を受けて、飲食を提供するカフェは営業の自粛をすることになりました。4月13日より自粛のために休業しました。せっかく利用のリズムができたところだったので、営業はしなくても、短時間出勤し店内の掃除や新しくメニュー表などの作成をしようということになりました。

天気のいい日には、座布団を干したり窓ガラスを磨いたりと普段なかなかできないことを分担しながらやってきましたが、何か物足りなさを感じ5月からテイクアウトのお弁当作りを始めました。何度か試食を作って見栄えや量など調整してスタートしました。

お弁当の評判は上々で、当初生活介護こだまの利用者、職員にと考えていましたが、他の事業所からも注文が入るようになり、こだまの利用者が注文できない日があるほどでした。6月からカフェが再開になり、短い期間でのお弁当作りでしたが、いつもはランチがスタートする時間からの利用者の方も弁当作りに合わせて早く出勤されたり、事業所までの配達に同行したりと、通常のカフェの営業では見られなかった利用者の方達の意欲的な側面も見られました。

6月からカフェの再開により、弁当販売がなくなるのを惜しんでくださる方もいて、嬉しい反応でした。再開したカフェには、心待ちにしていた常連さんたちがいつものように利用してくださっています。

6月1日より営業再開いたします

新型コロナウイルスの緊急事態宣言を受けて営業の自粛をしておりましたが、緊急事態宣言が解除になったことや松江市での新たな感染者の発生がないことを受け、6月1日より感染対策を万全にして営業を再開することにいたしました。

なお、今後の感染状況の推移により再び自粛することもございますので、よろしくお願いいたします。

【ご協力ください】



入店にあたっては、入口での手指消毒をお願いいたします。



定期的に窓を開けて換気を行います。ご協力ください。



スタッフが定期的にテーブル、椅子、ドアの取っ手、棚等の除菌を行います。ご協力ください。



店内では、間隔を取ってお座りください。座敷は1テーブルのみの利用となります。

カフェこだま

感染予防と熱中症対策

皆さん、こんにちは。いかがお過ごしですか？新型コロナウイルスの対策が続く中で迎えることしの夏。厚生労働省は、新型コロナウイルスの感染予防が必要なこの夏は例年より一層、熱中症に注意する必要があります。必要があるとして、「新しい生活様式」を踏まえた熱中症を防ぐためのポイントをまとめています。

そして、この時期、気になるのがエアコンを使うときの換気だと思います。そもそも、ほとんどの家庭用エアコンは室内の空気を循環させるだけで換気の働きはありません。熱中症のリスクが高まる真夏の時期は、窓を開けて自然に換気するよりも、トイレや台所についている換気扇など機械による換気を積極的に行いながら、同時にエアコンを使う方法を勧めています。このとき、窓は閉めていてもよいということです。日頃から自分の身体を知り、体調が悪いと感じたら無理せず静養ください。

この夏は例年よりも気かけなければいけないことがありますね。でも、気にしすぎもよくありません。ゴールが見えない今だからこそ、“そこそこ「ぼちぼち」を意識し、日々を送っていくことが大事だと思います。

いつか「あの時は大変だったよね」と語り合える日が来ることを願ってやみません。盛夏に向かいます折、皆さん、どうかご自愛くださいませ。
【大西 知子】

令和2年度の
熱中症予防行動

(別紙2)
環境省
厚生労働省
令和2年5月

「新しい生活様式」における熱中症予防行動のポイント

新型コロナウイルスの出現に伴い、感染防止の3つの基本である①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗いや、「3密（密集、密接、密閉）」を避ける等の「新しい生活様式」が求められています。このような「新しい生活様式」における熱中症予防行動のポイントは以下のとおりです。

- 1 暑さを避けましょう**
 - ・エアコンを利用する等、部屋の温度を調整
 - ・感染症予防のため、換気扇や窓開放によって換気を確保しつつ、エアコンの温度設定をこまめに調整
 - ・暑い日や時間帯は無理をしない
 - ・涼しい服装にする
 - ・急に暑くなった日等は特に注意する
- 2 適宜マスクをはずしましょう**
 - ・気温・湿度の高い中でマスク着用は要注意
 - ・屋外で人と十分な距離（2メートル以上）を確保できる場合には、マスクをはずす
 - ・マスクを着用している時は、負荷のかかる作業や運動を避け、周囲の人との距離を十分にとった上で、適宜マスクをはずして休憩を
- 3 こまめに水分補給しましょう**
 - ・のどが渇く前に水分補給
 - ・1日あたり1.2リットルを目安に
 - ・大量に汗をかいた時は塩分も忘れずに
- 4 日頃から健康管理をしましょう**
 - ・日頃から体温測定、健康チェック
 - ・体調が悪いと感じた時は、無理せず自宅で静養
- 5 暑さに備えた体作りをしましょう**
 - ・暑くなり始める時期から適度に運動を
 - ・水分補給は忘れずに、無理のない範囲で
 - ・「やや暑い環境」で「ややきつい」と感じる強度で毎日30分程度

高齢者、子ども、障害者の方は、熱中症になりやすいので十分に注意しましょう。3密（密集、密接、密閉）を避けつつ、周囲の方からも積極的な声かけをお願いします。

環境省 厚生労働省

新型コロナウイルス感染症に関する情報：
https://www.mhlw.go.jp/stf/setsakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

熱中症に関する詳しい情報：<https://www.wbgt.env.go.jp/>

支援について

今日一日大きな声が出なかったね〜」とある利用者の方のことを話していると、最近は、待ってくれることも多くいまは、「〇〇さんに△△しているのでのその後でいいですか」と言うと、待たれるようにもなりました……。嬉しい言葉だった。あんなに、自分の要求を通すのに大きな声でアピールして、すぐにやってくれ！とばかりの声をしていたのに大きな変化だ。よく聞いてあげること、スケジュールを伝えること、そんな対応をしているといつの間にか周りの動きに合わせていくことができるようになってくる。決して、わがままな人ではなく本当に理解してあげて何がそうさせているのか……。そんな問いをしていると、いつか自然と自分たちが思っている方向に行く。子育てとおなじだな〜と試してみよう。利用者のこうした変化をみていると、こだまの職員達の優しさ、洞察力と、支援の確かさを思った一日だった。
【ある日のこだま職員リレーブログより】